

World Vision

この子を救う。未来を救う。



カンボジアの子どもたち

World Vision

この子を救う。未来を救う。



スーダン難民の女の子

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
2024年度 年次報告書

2025年3月発行

発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350(代表) FAX: 03-5334-5359
HP: www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン2024年度
年次報告書
World Vision Japan Annual Report 2024
2023年10月 - 2024年9月

希望をつなぐ

2024年度 年次報告書 目次

数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン …	03	企業・団体との連携 ……………	19
2024年度 活動マップ ……………	05	アドボカシー ……………	21
チャイルド・スポンサーシップのしくみ ……	07	皆さまとともに ……………	22
チャイルド・スポンサーシップによる事業…	09	広がる支援の輪 ……………	23
募金や他団体との連携による事業 ……………	13	2024年度 会計報告 ……………	24
国内での事業 ……………	17	2024年度 支援事業一覧 ……………	27
能登半島地震緊急支援 ……………	18	ワールド・ビジョンについて ……………	29

基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
 私たちは貧しい人々のために献身します
 私たちはすべての人を価値あるものとし、
 私たちは仕えるものです
 私たちはパートナーです
 私たちはすぐに対応します

ごあいさつ

日ごろより、世界の子どもたちをご支援くださり誠にありがとうございます。心からの感謝を申し上げますとともに、2024年度ワールド・ビジョン・ジャパン年次報告書をお届けいたします。2023年10月に理事長に就任し、ワールド・ビジョン全体の会議に参加する中で、私の事務局長在職中と比較し、約8年間のうちに、世界の状況は過酷さを増していることを実感します。紛争や自然災害が引き起こす人道危機が世界の多くの地域を覆い、飢餓に苦しむ人や、難民・国内避難民として強制的な移動を強いられる人の数は増加の一途をたどっています。しかし、過酷さを増すこの世界で、ワールド・ビジョン・スタッフが世界中の長期の地域開発プログラムや緊急人道支援事業の現場で出会う子どもたちの、変革の担い手、平和の創り手、希望の象徴としての姿に、「最も弱い立場にある子どもたちに寄り添い続ける」という使命への決意を深める日々でもあります。チャイルド・スポンサーシップを通じては、世界で230万人以上の子どもたちを、ワールド・ビジョン・ジャパンでも5万4,655人の子どもたちを支えています。これもひとえに、皆さまのご支援のおかげと、改めて心より感謝申し上げます。ワールド・ビジョンは困難に立ち向かい、弱い立場に置かれた人々に寄り添い、子どもたちの命と生活、そして、未来を守ってまいります。今後とも皆さまの尊いご支援を賜りますようお願いいたします。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

片山 信彦



「何の仕事をしているの?と尋ねられたらこう答えて欲しい。『世界に希望を届けています』」。昨年4月に来日したワールド・ビジョン・インターナショナル総裁アンドリュー・モーリーがスタッフに語った言葉です。ワールド・ビジョンでは、紛争や災害などの人道緊急事象を規模や影響度に応じて分類し、対応を決定していますが、最も深刻なレベルと判定した人道危機事象はこの10年で10倍に激増、この影響を受けて苦しむ子どもたちの数も増加しています。希望を届けることはより難しく、より必要です。2024年度、ワールド・ビジョン・ジャパンは、66億円にのぼる資金をお預かりし、38カ国149事業の実施を通して、世界の子どもたちに希望を届けることができました。元日に発生した能登半島地震に際しては、子どもたちが少しでも日常を取り戻して欲しいと願い活動しています。ともに希望を届けてくださった皆さまに心から感謝申し上げます。新しい挑戦も広がっています。プラネタリーヘルスという概念が提唱するように、地球環境の悪化は、気候変動や自然災害、感染症、食糧問題など人間の健康や生活を脅かしています。ワールド・ビジョンの現場では、住民が主体となって自然を再生し、再緑化を図り、子どもたちに今より良い環境を残す取り組みが本格化しています。これからも新たな課題に挑戦し、子どもたちと世界に希望を届けてまいります。変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事/事務局長

木内 真理子



ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
 すべての子どもに豊かないのちを
 私たちの祈りは、
 すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
 Our Vision for every child, life in all its fullness
 Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
 国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、
 貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
 正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
 私たちは、このミッション実現のために、
 総合的かつ全体的な方法で、右の働きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2024年度の活動概要を、数字でご紹介します。



活動国・事業数



活動を数字



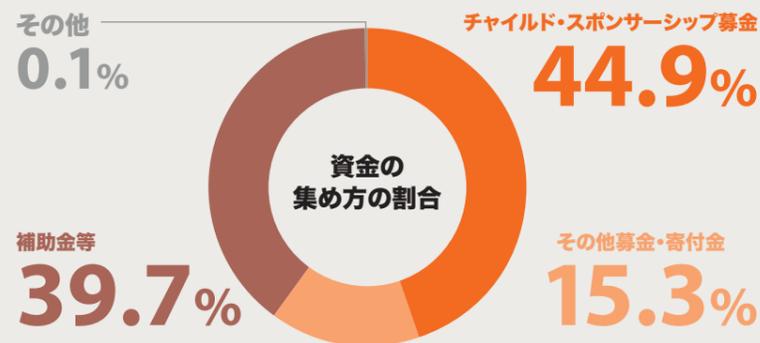
資金の集め方

2024年度の経常収益
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

66億7,856万円

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の約4割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水と食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

2024年度の経常費用
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

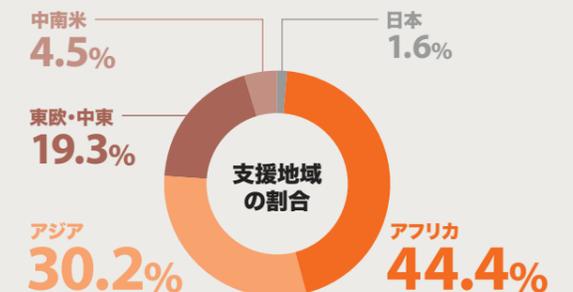
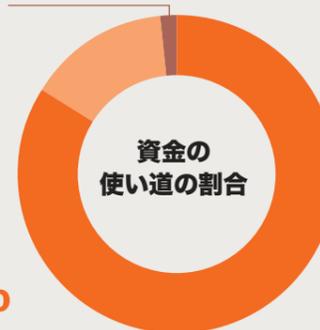
67億8,820万円

資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため
1.6%

広報活動のため
14.5%

現地事業活動のため
83.9%



ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界38カ国で149の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2024年度は世界38カ国で149の事業を実施しました。



各国駐在スタッフ(2024年度)

渡邊 裕子	ヨルダン	2015年3月～
古田 ちあき	イラク	2022年10月～
古徳 理歩	ウガンダ	2023年3月～
池之谷 理恵	ヨルダン	2023年4月～
小園 若菜美	ラオス	2023年5月～
李 義真	バングラデシュ	2023年7月～
遠藤 拓海	ケニア	2023年8月～
加藤 奈保美	ネパール	2024年4月～

アフリカ



机や椅子など学校家具の支援を受け、元気よく教室で学ぶ子どもたち(タンザニアのルテンデAP)



支援地域の子どもに手紙を渡す松岡(右)・且田(中央左)スタッフ(エスワティニのゲゲAP)



読書キャンプに参加した子どもたちと且田スタッフ(中央左/ルワンダのキラムルジAP)



ジャパン・プラットフォームとの連携事業で建設した給水施設に水をくみに来た女性と望月スタッフ(中央/エチオピア)



外務省 日本NGO連携無償資金協力により建設した新校舎の引き渡し式にて。古徳スタッフ(前列左/ウガンダ)

※AP(Area Program)とは、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムを意味しています。詳しくはP7-12参照。

東欧・中東



災害対応担当者のグローバル会議に伊藤スタッフが参加(モルドバ)



アラビア語の補習プログラムを受けるモスルの小学生たち(イラク)

アジア



「『キャプテン翼』ボールはともだちプロジェクト」で贈られたボールを手に喜ぶ子どもたち(カンボジア)



少数民族の子どもたちと平井スタッフ(ベトナムのムオンチャAP)



外務省 日本NGO連携無償資金協力で教育支援を行う子どもたちと小園スタッフ(ラオス)



ロヒンギャ難民キャンプのホストコミュニティの女の子・女性たちに話を聞く池内(左)・高尾(右)スタッフ(バングラデシュ)

中南米



子どもの保護に関する研修を受けた地域リーダーが行っている定期会合(エルサルバドルのティエラ・ヌエバAP)



支援を受ける子どもたちと神田スタッフ(中央/グアテマラのチセクAP)

WVJが事業を実施している国

アフリカ

- コンゴ民主共和国
- エスワティニ(スワジランド)
- エチオピア
- ガーナ
- ケニア
- マリ
- ルワンダ
- 南スーダン
- ソマリア
- スーダン
- タンザニア
- ウガンダ
- ブルンジ

東欧・中東

- アフガニスタン
- イラク
- レバノン
- ルーマニア
- ウクライナ
- ジョージア
- ヨルダン
- モルドバ
- シリア
- トルコ

アジア

- バングラデシュ
- カンボジア
- ミャンマー
- フィリピン
- ベトナム
- 台湾
- ラオス
- ネパール
- スリランカ
- インドネシア
- 日本

中南米

- エクアドル
- エルサルバドル
- グアテマラ
- ホンジュラス



外務省 NGO 連携無償資金協力により設置した井戸を使う事業地の住民たちと李スタッフ(前列右/バングラデシュ)

国内



能登半島地震で被災した子どものために開催したイベントでうちわ作りをする子どもたちと遠藤スタッフ

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

※AP=Area Program(チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラム)

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にしたお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、子どもの保護等の地域の課題に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、さらに発展できるように、人材や住民組織の育成にも力を入れています。

保健・栄養

健康と成長を守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成し、子どもの病気予防や栄養状態の改善、妊産婦のケア等の啓発・トレーニングを行います。また、保健施設や備品の整備等も行います。



保健センターが開設され、医療従事者への研修の結果、医療施設での出産、診察が可能になりました(タンザニアのムキンガAP)

生計向上

家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定して収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄・融資組合の活動支援等、地域の特性をいかした活動を行います。



地域市場が開設されたことで、地域ビジネスが活気づき、都市への移動による負担が軽減しました(グアテマラのサンタ・マリア・カアボンAP)



教育

学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象とした啓発活動を実施。教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や、教師へのトレーニングを行います。



子どもの成長にとって極めて重要とされる乳幼児期の発達を支援しました(ルワンダのキラムルジAP)

水衛生

安全な水が飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちの病気を防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



給水設備の支援で安全な水が入手できるようになり、長時間の水くみ労働からも解放されました(エスワティニのシェウラAP)

子どもの保護

子どもの健やかな成長を支えます

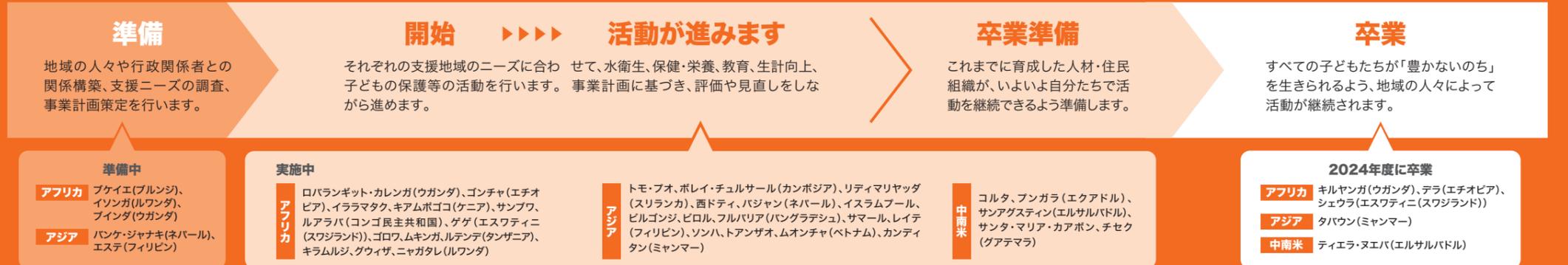
子どもを虐待や労働・搾取等の暴力から保護し、すべての子どもの権利が守られ個性が尊重されるよう、地域のリーダーや保護者、子どもたちを対象にした啓発・トレーニング等を行います。



子どもクラブで意見をまとめる子どもたち。地域にある溜め池などの危険な遊び場について話し合いました(ベトナムのトアンザオAP)

チャイルド・スポンサーシップのプロセス

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、約15年。地域の人々が、支援終了後も子どもたちを健康に育て、学校に通わせ、自分たちで問題を解決できるようになることを目指しています。



開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ

43の地域 開発プログラムを世界中で継続しました。そのうち3つの地域での成果をご紹介します。

フィリピンからの報告

サマル地域開発プログラム

支援期間 2009年～2028年



支援の背景 自然災害とインフレが子どもたちに影響

サマル州は、2023年に貧困率が24.9%に達し、多くの家庭が脆弱な環境での生活を強いられています。自然災害による収入の不安定さにインフレが追い打ちをかけ、教育機会の制限、幼児の栄養不良、メンタルヘルスの問題が深刻化しています。

サマル地域で台風の被害を受けた住居(2013年) ▶



2024年度の主な成果

教育

生徒の教育へのアクセスを改善するため、沿岸地域に住む高校生を無料で送迎するスクールモーターボートを提供し、69人の生徒が定期的に授業に出席できるようになりました。これにより教育機会が広がり、出席率が向上しました。

ボートで通学する高校生



生計向上

持続可能な食料確保のため、卵と家禽の管理トレーニングを実施しました。参加者は小規模ビジネスに必要な知識とスキルを習得し、ビジネス管理能力が向上。新たな収入源を得て販売収益が増加し、貧困状態から脱却する手助けとなりました。

鶏小屋から卵を集めているトレーニングに参加したジルさん



エクアドルからの報告

ブンガラ地域開発プログラム

支援期間 2007年～2027年



支援の背景 地域に影を落とす薬物・アルコール依存、家庭内暴力

貧富の格差が大きいエクアドルの中でも特に貧しいチンボラソ県では、慢性的な栄養不良を抱えた幼い子どもたちが少なくありません。また、地域における薬物・アルコール依存や家庭内暴力の蔓延が子どもの健全な成長を脅かし、深刻な問題となっています。

地域住民にヒアリングする現地スタッフ ▶



2024年度の主な成果

子どもの保護

「Escuelas de la Ternura(優しさの学校)」というプログラムを通じて、子どもにとって安全で平和な家庭・地域環境の形成を促進しました。「親や保護者と積極的で平和的な関係を築いている」と回答する12～18歳の子どもたちの割合は、2022年の36%から74%に向上しました。子どもや家族との平和的な絆を強めることを目的とした保護者向けの研修



教育

支援を受けた45人の教師が中心となり、小学校の子どもたちに読書を習慣づけるイベントを行いました。学校で読書の時間を設けること、読書フェスティバルを開催することなどにより、子どもたちの基本的な読み書きの能力が向上しています。

読書の楽しさを味わいながら読解力を高める読書フェスティバル



ケニアからの報告

キアムボゴコ地域開発プログラム

支援期間 2007年～2027年



支援の背景 早婚や衛生環境の悪さが課題

この地域では、法律で定めた年齢を無視した早婚や妊娠の慣習が根強く、子どもの権利や安全が守られるための保護者への啓発活動や、子ども自身が自分の権利に関する理解を深める必要がありました。また、安全な水や衛生施設(トイレ)へのアクセスが悪く、感染症への対策も課題です。 地域内で生活用水に使っている溜め池 ▶



2024年度の主な成果

保健・栄養

「My Health My Choice(私の健康、私の選択)」というプログラムを通じて、192人の思春期の子どもたちがHIV/エイズのリスクやリプロダクティブヘルスに関する研修を受けました。これにより地域内の若年妊娠の数が前年比で約75%減少しました。

◀ リプロダクティブヘルスについて話し合う子どもたち



水・衛生

3つの小学校での計16基のトイレ建設や村落保健員への啓発を行いました。16村1,143世帯が衛生設備(簡易トイレ、簡易手洗い施設)にアクセスできるようになり、その結果、地域内の下痢症例数が50%減少しました。

◀ 学校に建設されたトイレと簡易手洗いタンク



ケニアから感謝をこめて

ご支援によりチャイルドの世界が広がっています

キアムボゴコはケニアの他地域に比べて多様な民族が居住している地域です。スタッフが文化的背景の異なるチャイルドと心理的つながりを強めることは大変ですが、定期的な世帯訪問やチャイルドが集まるイベントを行うことで相互理解を深めています。チャイルドと直接関わる現地ボランティアの1人であるポールさんは「スポンサーの皆さまから受け取る手紙に、チャイルドはとても喜んでます。それだけでなく、遠く離れたスポンサーの皆さまのことや日本の生活に思いを馳せることでチャイルドの世界が広がっているのを感じます。手紙のやり取りを通じて想像力が育ち、地域内の相互理解も進んでいるのが感じられ、スポンサーの皆さまにはとても感謝しています」と言います。チャイルド・スポンサーの皆さまには、ご支援を通じて、地域の発展だけでなくチャイルドの心の成長にも貢献いただき、ありがとうございます。(ケニア駐在:遠藤 拓海)



現地スタッフと遠藤スタッフ(左から2人目)

開発援助 チャイルド・スポンサーシップ

支援卒業(終了)報告

チャイルド・スポンサーの皆さまのご支援により、2024年度は5つの地域開発プログラムが支援卒業(終了)を迎えました。そのうちの1つである、キルヤンガ地域(ウガンダ)での活動の成果をご紹介します。

支援卒業報告

ウガンダ キルヤンガ地域開発プログラム

支援期間 2007年～2024年



貧困の改善が自信につながり、地域の子どもたちは、学ぶ喜びと未来への希望が持てるようになりました

キルヤンガ地域では住民のほとんどが農業に従事していますが、収穫が少ないため、子どもを学校に通わせることができないばかりか、十分な食べ物すらない家庭も珍しくありませんでした。結果として、多くの子どもが基礎的な学力を身につける前に小学校を退学し、大人になっても安定した職に就けない、という負の循環から抜け出せずにいました。ワールド・ビジョンは貧困の改善を目指し、収穫量の増加や、自然災害に強く、栄養価の高い作物の栽培などの研修を実施したほか、「貧困の連鎖」を断ち切るための教育の重要性を、保護者や教員、地域のリーダーに訴えかける啓発活動を継続的に行いました。こうした活動を通して、各世帯の収入が増え、住民は十分な食料を確保できるようになりました。小学校の退学率も減少し、子どもの読み書きの能力にも向上が見られています。さらに、給水設備の設置、保健スタッフによる予防接種の推進指導といった支援も進め、子どもの健やかな成長につながっています。

BEFORE



老朽化した校舎

AFTER



支援で建設された、新しい校舎で学ぶ子どもたち。安心して学べる環境が整いました

BEFORE



沼地から不衛生な水をくむ女性

AFTER



学校に設置された水道のおかげで、安全な水を飲むことができるようになりました

活動の成果

小学校の退学率
45%(2010年) ▶ 4%(2023年)

栄養バランスの良い食事がとれる世帯
36.3%(2015年) ▶ 91.5%(2023年)

安全な水にアクセスできる世帯
28%(2010年) ▶ 89%(2023年)

各地域開発プログラムの支援卒業報告はこちら



支援卒業を迎えた地域

- ミャンマー タバウン地域(2003年～2024年)
- エチオピア テラ地域(2005年～2024年)
- エルサルバドル ティエラ・ヌエバ地域(2005年～2024年)
- ウガンダ キルヤンガ地域(2007年～2024年)
- エスワティニ シェウラ地域(2007年～2024年)

Child Story チャイルドストーリー

かつての自分と同じ境遇の女の子を支えたい

「私たち家族はとても貧しく、食事は日に一度だけでした」。そう語るジェスカさんは、勉強が大好きな女の子でしたが、経済的な理由から、進学をあきらめざるを得ませんでした。失意にあった彼女の転機となったのは、ワールド・ビジョンのスタッフに勧められて見学した縫製の職業訓練でした。「私もミシンを使いこなして、素敵な服を作りたいと強く思いました」。その後彼女は職業訓練を受講し、修了後、仕立てのビジネスを立ち上げました。「チャイルド・スポンサーの皆さんの愛情とご支援に、心から感謝しています」と語るジェスカさん。4歳のときからチャイルドとして支援を受けながら成長した彼女は今、かつての自分と同じような境遇にある少女たちを支えたい、という夢に向かって歩んでいます。

ジェスカさん(19歳)



コミュニティの声

生活に大きな変化がもたらされました

ご寄付のおかげで、人々の生活に大きな変化がもたらされました。今後も私たちは、活動の成果を引き継ぎ、自分たちの力で発展することをお約束します。そして子どもたちが学校に通い教育を受け、健やかに成長し、希望に満ちた人生を送れるよう、支えていきます。チャイルド・スポンサーの皆さまに、地域を代表して心より感謝申し上げます。

カガディ県女性評議員 アハース・ビエンダムワ氏



スタッフの声

笑顔が生まれたのは、ご支援のおかげです

貧困、劣悪な衛生環境、安全な水の欠如といった、キルヤンガ地域が抱えていた課題は、今では大幅に改善されました。子どもたちは整備された小学校で学び、多くの若者が職業訓練を受けて、安定した仕事に就くことができます。地域社会が発展し、人々に笑顔が生まれたのは、皆さまのご支援のおかげです。心から感謝します。

キルヤンガ地域開発プログラムマネージャー ジョセフ・アダラ・ニヨンゲサ



開発 緊急 子どもの保護

事業実施国 ラオス、バングラデシュ、ネパール、エチオピア、南スーダン、スーダン、ウガンダ、シリア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連児童基金(UNICEF) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連人道問題調整事務所(UNOCHA) / 国連教育科学文化機関(UNESCO) / 教育のためのグローバル・パートナーシップ(GPE)

皆さまからの募金額

- 児童保護募金 2,344,495円
- 危機にある子どもたちのための募金 37,719,198円
- 誕生日記念募金 21,025,490円
- コミュニティ・サポーター 69,867,000円 ※水・食糧分含む
- プロジェクト・サポーター 114,072,000円 ※水・食糧、難民支援分含む
- ミャンマー難民危機緊急支援募金 206,500円

開発 緊急 水・食糧支援

事業実施国 ミャンマー、バングラデシュ、エチオピア、ケニア、ルワンダ、ソマリア、南スーダン、スーダン、タンザニア、ウガンダ、コンゴ民主共和国、マリ、アフガニスタン、イラク、レバノン、トルコ、シリア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連人道問題調整事務所(UNOCHA) / 国連世界食糧計画(WFP)

皆さまからの募金額

- クリスマス募金 139,504,332円
- 水と食糧のための募金 16,667,630円
- ラブ・ローフ募金 1,414,163円
- コミュニティ・サポーター 69,867,000円 ※子ども保護分含む
- プロジェクト・サポーター 114,072,000円 ※子ども保護、難民支援分含む

ネパールからの報告

アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業



支援の背景
「誰一人取り残さない防災対策」が必要

ネパール極西部カルナリ川流域では洪水や地滑りが頻発。人命や生活基盤に深刻な被害をもたらしているため、地域社会と地方自治体の災害管理能力を強化し、住民の知識とスキルを向上させることが急務です。また、持続可能な防災計画の策定と更新が求められています。



カイラリ郡の洪水時の浸水の様子(2023年8月)



災害時の捜索・救出の訓練実施
気候変動に強い農業を学ぶ研修
地域ハサードマップに関するオリエンテーション

2024年度の主な成果

地域の災害レジリエンスを高める取り組みを進めています

地域社会が、自ら災害対策を講ずるために、参加型で地域リスクを見直し、防災マップや計画の策定、緊急情報網の整備を進め、対応能力強化を進めてきました。農家が多いこの地域は、災害ショックへの耐性を高める必要があり、気候変動に適応した農業技術の普及や家計に関する教育を通じて、住民の知識とスキルの向上を図っています。さらに、地域社会や住民が災害への対応を確実にするために地方自治体が本来の機能を発揮して責任を果たせるよう、社会基盤の整備や防災計画の策定、実行能力の強化を支援しています。これにより、地域全体の災害対応力の向上を目指しています。

支援地域からの声

いつものような被害はありませんでした

災害対策としてカルナリ川沿いに護岸用の蛇籠(じゃかご)と植樹の支援が行われました。建設方法や技術をプロジェクトから学び、作業は地域住民が行いました。今年の雨期も洪水はありましたが、いつものような作物被害や土壌浸食はありません。私たちはこの対策に満足しています。



アチャム郡バンチャデワール・ビナヤック市第5区アリコミュニティ災害管理委員会メンバー

数値で見る成果

防災対策支援を受けた人
計 **21,423**人

小規模な災害緩和策施工
9カ所、443世帯/2,410人が裨益

気候変動に強い農業研修の実施
21回

シミュレーション演習の実施
地すべり**9**件、洪水**30**件

南スーダンからの報告

トンジ郡における食糧支援事業



支援の背景
武力対立から子どもの栄養状態が悪化

気候変動や紛争の影響を受ける南スーダンのトンジ郡。2022年の軍と青年らの武力対立により国内避難民が増加しました。生活の糧を失った人々は、日々の食料を入手できず栄養状態が悪化し、就学が困難になる子どもが増加しています。



食料支援を求める国内避難民たち



支援により受け取った食料で子どもたちを養う女性
食糧支援を受け取った女性

2024年度の主な成果

給食の提供と持ち帰り食料の支援が子どもたちの就学を後押し

WVIは、国連世界食糧計画(WFP)と協働し、トンジ郡の国内避難民や難民を対象に食料配布を行いました。生後6カ月から2歳の子どものいる世帯には栄養価の高い食料を届け、併せて栄養状態も調査。栄養不良の防止と改善に努めました。また、小学校では給食の提供と持ち帰り食料の配布を行い、子どもたちの就学を後押ししています。そのほか学校内と地域にグループ農園を作り、栽培方法についての指導を行いました。さらに生計向上のため、小規模ビジネスを開始するための支援を行い、支援を受けた世帯は食料品店やパンの店を開業して定期的な収入が得られるようになり、生活も安定しました。

支援地域からの声

一度は退学しましたが、復学できました

私は父の理解が得られず一度学校を退学しましたが母のサポートを得て復学しました。今では支援のおかげで給食が食べられます。出席すると持ち帰り食料ももらえるので父も学校に行くことを応援してくれていて、妹も学校に通えるようになりました。学校では野菜を栽培し、さまざまな野菜を育てて給食で調理しています。



テレサさん(17歳)

数値で見る成果

食糧支援を受けた人
3,624人

配布した食糧
192トン

給食支援を提供した子どものべ**8,317**人

緊急人道支援 難民・国内避難民支援

事業実施国 ミャンマー、フィリピン、ルワンダ、ソマリア、南スーダン、コンゴ民主共和国、マリ、ホンジュラス、アフガニスタン、イラク、レバノン、シリア、ヨルダン、ウクライナ、ルーマニア、モルドバ、ジョージア、ヨルダン川西岸地区

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (JPF) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連開発計画 (UNDP) / 教育を後回しにはできない (Education Cannot Wait) 基金 (ECW)

皆さまからの募金額

■ 夏期募金	13,000円
■ 難民支援募金	90,094,382円
■ プロジェクト・サポーター	114,072,000円
<small>※水・食糧、子ども保護を含む</small>	
■ プロジェクト・サポーター(難民支援)	25,962,500円
■ シリア緊急支援募金	223,500円
■ ウクライナ危機緊急支援募金	7,657,150円
■ トルコ・シリア大地震緊急援助募金	1,458,762円
■ アフガニスタン地震緊急支援募金	2,443,432円
■ パレスチナ緊急支援募金	9,268,708円

ヨルダンからの報告

イルビッド県における脆弱層に向けた初等・中等教育の就学・学習支援体制強化事業



支援の背景

大量のシリア難民受け入れで逼迫するヨルダン

シリア難民130万人以上を受け入れるヨルダンでは、難民児童が急増しました。2部制の導入に伴う教室・教員不足、学習時間の短縮など、学びの環境の悪化が大きな問題に。特に障害のある子どもは79%が就学できていません。



ほとんどの公立学校でバリアフリー化は進んでいません



特別支援教室で学ぶ視覚障害を持つ子ども

補習授業に参加する子どもと池之谷スタッフ

2024年度の主な成果

障害を持つ子どもも取り残さないインクルーシブ教育を行っています

障害を持つ子ども、学習の遅れや退学リスクのある児童、難民といった脆弱層の子どもたちが教育を受け、学習を継続できるよう支援しています。放課後の補習授業は、子どもの学力や学習意欲向上に効果がありました。また、障害の有無に関わらず子どもたちが同じ学級で学ぶインクルーシブ教育を対象12校で促進しています。子どもたちに必要なサポートを提供できるようにと教員や保護者、地域住民を対象に研修や啓発活動を行ったことで、同級生や教員との交流が増え、自己肯定感が高まったとの声が聞かれています。また、各校が主体的に学校改善に取り組むため、学校運営委員会を強化しました。

支援地域からの声

車椅子でも学校生活を送れるようになりました

車椅子のラマさんにとって通学は命がけ。でも今は支援があり車で通学ができ、学校はバリアフリーに。誰にも頼らず教室まで行ける喜びを感じています。シリアから避難後しばらく学校に通えず、英語が嫌いでしたが、補習授業の成果で好きになりました。「先生たちがどれほど私を誇りに思っているかが感じられ、幸せです。」



シリア難民の女子生徒 (ラマさん、18歳)

数値で見る成果

補習授業を受けた子ども

721人

(障害を持つ子ども82人、難民114人含む)

バリアフリー化・施設の整備を行った学校

12校

インクルーシブ教育について研修を受けた教職員

130人

いま危機の中で生きる子どもたちに希望を

危機発生地



紛争や迫害などが原因で故郷を追われた人の数は、2024年5月時点で1億2,000万人と、日本の人口規模にまで達しました。紛争、自然災害、政治・経済・社会状況など、複合的な要因により世界中で人道危機が多発しています。恐怖の中にいる子どもたちが命をつなぎ、心身の傷を癒し、未来への希望を持てるよう、世界のワールド・ビジョン事務所と連携し、食糧、水・衛生、緊急援助物資の支援を届け、暴力からの保護や社会心理的支援を行っています。

主な支援実績

ウクライナ危機 2022年2月から2024年9月: 92万人の子どもを含む200万人を支援(ウクライナ、モルドバ、ルーマニア、ジョージア)
中東危機 2023年10月から2024年9月: 子ども17万人を含む69万人を支援(ヨルダン川西岸地区、レバノン)
スーダン危機 2023年4月から2024年10月: 151万人の子どもを含む281万人を支援(スーダン、南スーダン、チャド、エチオピア)

3 スーダン危機

1,100万人が避難。女性・子どもへの暴力と飢餓が拡大



難民キャンプ内のチャイルド・フレンドリー・スペースで過ごす8歳の女の子(チャド)

4 シリア危機

長びく紛争、大地震の爪痕による厳しい生活



保護者と離れ離れになってしまった子どもたちなどを保護し、教育支援を継続

6 コンゴ民主共和国

紛争、感染症、長期にわたる複雑な人道危機



国内避難民キャンプで女性と若者を対象とした職業訓練プログラムで縫製を学ぶ女の子

7 ホンジュラス

経済低迷の中、犯罪と暴力は世界最悪の水準



大学との共催で心のケアを目的に実施したアートプログラムに参加した女の子

1 ウクライナ危機

第二次大戦後最悪のスピードで拡大した危機



紛争で傷ついた子どもたちに接する大人を対象とした心理的サポート研修(レビュー)

2 中東危機

710万人以上の子どもが強制移動、飢えに直面



「私の居場所」クラブで心をケアする活動に参加する子どもたち(ヨルダン川西岸)

5 アフガニスタン

40年にわたる紛争に加え、地震・洪水に被災



チャイルド・フレンドリー・スペースで、児童労働や暴力などのリスクを学ぶ子どもたち

8 フィリピン ミンダナオ紛争の和平構築

対立の歴史を乗り越え、憎しみの連鎖を断つ



ミンダナオ平和プロジェクトの合宿に参加した、平和の担い手となることが期待される若者

国内での事業

国内支援は、2023年度から「国内子ども支援事業」として取り組みを拡充し、日本の子どもたちの豊かな成長に貢献するための活動を展開しています。

緊急 アドボカシー 国内子ども支援事業

子どもの居場所運営や子どもの権利の啓発活動に加え、入学祝い金の支給、民間シェルターに対する活動資金の助成を全国規模で展開するなど活動の幅を広げています。また、2024年1月から能登半島地震緊急支援を開始し、平時から災害時まで多岐にわたる活動に邁進した1年となりました。

子どもの居場所「みんなのへや」

2023年8月から、ワールド・ビジョン・ジャパンの事務所がある東京都中野区で、放課後と長期休み中の子どもの居場所「みんなのへや」を運営しています。2024年度は計48回開催し、延べ339名の子どもが参加しました。開始から1年以上が経ち、地域の方々にも支えられ、子どもたちがほっと一息つける居場所として定着しつつあります。

参加した子どもの声

すこくいいところだと思う

いつも遊んでもらえて楽しいです

保護者の声

みんなのへやがある日は、子どもが活動的です。これからもよろしくお願いします

夕飯を友達と食べられるのが嬉しいようです。親としてもとても助かります



夏休みのかき氷づくりの様子

ワールド・ビジョン・ジャパン 全国入学祝い金

進学や入学後の費用負担を少しでも軽減し、子どもたちの学びの機会を支える一助となるよう、全国の新中学生・新高校生(2024年度入学)を対象に「ワールド・ビジョン・ジャパン全国入学祝い金」を実施しました。新中学生には現金3万円と5千円分の図書カード、新高校生には現金5万円と1万円分の図書カードを200名に贈呈しました。定員を大幅に上回る1,242名から応募があり、選考外となった1,042名にも当初の計画を変更し、1人あたり500円の図書カードを贈呈しました。

モネの素敵な絵柄の図書カードをいただき、美術が好きな子どもが大喜びし大切に保管しています。昨年のモネ展に行きたがっていましたが、家庭の都合により展示ポスターを眺めるだけでした。夏休みには検定試験のテキストを図書カードで買い、受験できました。きょうだいも今年は課題図書を購入し、読書感想文の宿題に楽しみながら取り組んでいます。物価高の中の夏休みですが、おかげさまで楽しく学習や読書をして過ごすことができます。

(保護者からのメッセージを一部要約)

2024年度助成先(団体名五十音順)

認定NPO法人いくの学園(大阪府大阪市)
 特定非営利活動法人オカヤマビューティサミット(岡山県岡山市)
 特定非営利活動法人オフィス・マハロ(愛知県小牧市)
 特定非営利活動法人女のスペース・おん(北海道札幌市)
 認定特定非営利活動法人こどもの里(大阪府大阪市)
 認定NPO法人CPAO(大阪府大阪市)
 認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ(兵庫県)
 一般社団法人女性と子どものエンパワメント研究所(福岡県久米市)
 特定非営利活動法人女性ネットSaya-Saya(東京都)
 特定非営利活動法人DV対策センター(神奈川県横浜市)
 一般社団法人白鳥の森(徳島県徳島市)

民間シェルター等への助成金

長引くコロナ禍で急増したDV・虐待等被害の状況を憂慮し、特に脆弱な環境にある子どもに支援を届けるために、2021年より全国のDV・虐待被害者等の宿泊型支援等(民間シェルター等)に対する活動資金の助成を行っています。2024年度は11団体に助成を実施しました。助成金は、宿泊型支援、または関連活動(食・学習・居住等の生活支援、啓発、相談、同行支援、自立支援、回復支援、支援者養成、人件費等)に活用されています。

能登半島地震緊急支援

一日も早く日常を取り戻すために

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震を受け、ワールド・ビジョン・ジャパンは、1月7日に第1陣のスタッフを石川県に派遣し、初動調査・対応を開始しました。被災した方々が一日も早く日常を取り戻せるよう、金沢市、七尾市、輪島市等で、行政、地域の教育関係者、教会、他の子ども支援団体と連携し、子ども支援活動を展開しました。皆さまからのご寄付により、①子どもの居場所・遊びの支援、②学校等の再開支援、③子どもを支援するおとなへの支援、④仮設住宅への物資支援を柱として活動し、9月末までに4,086人に支援を届けました。

① 子どもの居場所・遊びの支援～災害時にも子どもの権利を守るために

すべての子どもが持つ「子どもの権利」には、学ぶことや遊ぶこと、安心して休むこと、自分を表現することなどが含まれますが、これらは特に災害時の混乱の中では守られにくくなりがちです。どうしたらこれらの権利を守ることができるか、何が不足しているのかを、子どもたち、そして子どもの周りのおとなや地域社会の方の声を聴き、外部からの支援者として補うことを基本姿勢、そして、役割として、活動を進めました。

A 広域避難所での子どもの居場所立ち上げをサポート(金沢市)



B 避難生活が長引く中、イベント「わくわくデー」を3日間、計4回開催(七尾市、輪島市)



C 小学校で放課後や休日の遊び場「みんなで遊ぼう!」を2月に開始し9月までに19回開催(輪島市)



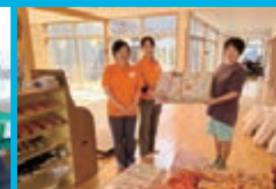
D 大学生ボランティアの皆さんが企画段階から参加し、夏休みに楽しい遠足が実現



② 学校等の再開支援



小学校や保育園などに文具、防災頭巾などを支援



9月の豪雨で再び被災した保育園に寝具、着替え、おむつなどを支援

③ 子どもを支援するおとなへの支援



保育士、保護者、キリスト教会の教会学校の方々に「心理的応急処置(PFA)」研修を実施

④ 仮設住宅への物資支援



寝具セットを仮設住宅12カ所の1,060人に提供

9月末までに4,086人に支援を届けました

()内は支援対象者に占める子どもの数

初期支援
360人(170人)

子どもの居場所・遊びの支援
1,221人(488人)

学校等の再開支援
1,408人(1,308人)

子どもを支援するおとなへの支援
37人

仮設住宅への物資支援
1,060人(68人)
(寝具セットと子ども用プレゼント)

企業・団体との連携

2,911社・団体から、総額504,009,473円の寄付をお寄せいただきました。

企業・団体の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売り上げからの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへの協力等、様々な支援・協力をいただきました。

2024年度支援実例紹介(一部)

特別プロジェクトによる支援		
 <p>塩野義製薬株式会社</p> <p>ご法人とSHIONOGIグループ社員からのご寄付をもとに、ケニアの母子保健改善に向けた取り組み「Mother to Mother SHIONOGI Project」を支援いただいています。プロジェクト開始から10年となる2024年度は、キリフィ県(第2期事業)とナクル県(第3期事業)を実施しました。</p>	 <p>株式会社JYPエンターテインメント・ジャパン</p> <p>JYPエンターテインメントが展開する社会貢献プログラムEDM(Every Dream Matters!)の一環として、アジア4カ国での「最も弱い立場にある子どもたちのための医療費支援プロジェクト」を支援いただきました。</p>	 <p>森永乳業株式会社</p> <p>ベトナムの子どもたちの健康を応援する「Smiles & Health for Children」を通して、同国ディエンビエン省での健康・栄養改善事業、および、チャイルド・スポンサーシップを支援いただきました。</p>
チャイルド・スポンサーシップ等を通して		
 <p>山崎製パン株式会社</p> <p>チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援いただいています。また2024年度はヤマザキ「ラブ・ローフ募金」により、能登半島緊急支援とバングラデシュでの水・衛生改善事業を実施しました。</p>	 <p>LINEヤフー株式会社</p> <p>長年にわたり、Yahoo!ネット募金を通して支援くださっています。また2024年度は、Yahoo!基金より「能登半島地震緊急支援」へのご寄付をいただきました。</p>	 <p>株式会社 山田養蜂場</p> <p>11カ国100人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。あわせて2024年度は、関連会社から難民支援募金等にもご協力をいただきました。</p>
 <p>株式会社チュチュアンナ</p> <p>長年にわたり、25人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。また2024年度は、「国内子ども支援募金」にもご協力いただきました。</p>	 <p>クラウドバンク・グループ</p> <p>アジア5カ国100人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。社員の方々も、チャイルドとの交流を楽しんでくださっています。</p>	 <p>三菱自動車工業株式会社</p> <p>長年にわたり、チャイルド・スポンサーシップを通して途上国の子どもたちの成長や、特別プロジェクトを通してアジアの子どもたちの学習環境改善を支援いただいています。</p>

商品・サービスの売り上げからの寄付

 	<p>株式会社丸井グループ 株式会社エポスカード</p> <p>「エポスカード」によるポイント寄付、および丸井グループからのマッチング寄付をあわせて、「能登半島地震緊急支援募金」にお寄せいただきました。</p>
---	--

支援・協力をいただいた企業・団体(一部)

 <p>ヒロセ通商株式会社</p>	 <p>パナソニックホールディングス株式会社</p>	 <p>ファルマ・ソリューションズ株式会社</p>
 <p>ハニカム・テクノロジー株式会社</p>	 <p>株式会社レントラックス</p>	 <p>株式会社プロマックス</p>
 <p>プレコグループ</p>	 <p>有限会社香取運輸</p>	 <p>株式会社タイセイ</p>
 <p>株式会社シンシア</p>	 <p>株式会社アスリシエイト</p>	 <p>株式会社ブルマーレ</p>
 <p>日清製粉株式会社</p>	 <p>株式会社奥誠環境商事</p>	 <p>株式会社中央軒煎餅</p>
 <p>株式会社プチファーマシスト</p>	 <p>玉の肌株式会社</p>	 <p>ジースプレッド株式会社</p>
 <p>オリエンタル酵母工業株式会社</p>	 <p>株式会社不二家</p>	 <p>月島食品工業株式会社</p>
<p>宮園輸入車販売株式会社 株式会社秋山住研 株式会社ウチヤマホールディングス 株式会社 FDJ 豊紙器販売株式会社 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 若尾製菓株式会社</p>	<p>ミヨシ石鹸株式会社 doublejump.tokyo株式会社 キャリアインキュベーション株式会社 株式会社リアルト・ハーツ 株式会社BOLS・1987 浜松産業株式会社 山下湘南夢クリニック</p>	<p>医療法人真芳会 三菱自動車STEP募金 株式会社シーブランド 株式会社マスパック 株式会社オカムラ 株式会社ティーディーシー</p>
<p>捜真小学校 梅光学院大学 梅光学院中学校・高等学校 小林聖心女子学院中・高等学校 三鷹小鳩幼稚園</p>	<p>青山学院初等部 愛徳学園小学校 日進ベタニヤ幼稚園 国際基督教大学高等学校 キリスト教活動委員会</p>	<p>玉川聖学院中等部・高等部 生徒会 立教女学院中学校 博多高等学校 横浜女学院中学校高等学校</p>
<p>荻窪栄光教会 グレースコミュニティ 主都福音キリスト教会 坂戸キリスト教会</p>	<p>オアシス 蒲田シオン教会 日本福音同盟 ニューホープ横浜</p>	<p>浅草橋教会 東京フリー・メソジスト小金井教会 池の上キリスト教会 東京ユニオンチャーチ</p>

アドボカシー

子どもを取り巻く問題の根本解決を目指し、不公正な社会を変えていくため、政府や市民社会に訴えます。

アドボカシー

国連未来サミットへの参加と登壇

2024年9月、第79回国連総会に合わせて「国連未来サミット」が開催されました。SDGsの達成期限まで残り6年ですが、予定通り進捗しているターゲットはわずか17%であり、一方、気候変動や紛争の深刻化、世界の分断の進行によりその進捗はますます妨げられています。国連未来サミットは、世界のリーダーたちがこれまでの合意を履行・加速するために、改めて多国間主義への信頼回復と国際協力の強化について議論・合意することを目的に開催されました。参加した柴田スタッフは、本会議のセッションに市民社会代表スピーカーの1人として選ばれ登壇したほか、SDGs市民社会ネットワークによるライブ配信に登壇し、現地から最新の状況を伝えました。



国連未来サミット本会議場スピーカースタッフ(左から2人目)

緊急時及び長期化する危機下の教育(EiEPC)

ワールド・ビジョン・ジャパンは、2019年より日本政府に対し、「緊急時及び長期化する危機下の教育(Education in Emergencies and Protracted Crises: EiEPC)の政策優先化と「教育を後回しにはできない基金(Education Cannot Wait: ECW)」への資金拠出を求めるアドボカシーを続けてきました。その成果として、2023年12月の第2回グローバル難民フォーラムで日本政府よりECWに対する初の拠出が発表されました。2024年6月には、ECWやEiEPC啓発のため、ECW事務局長、日本政府、JICA、有識者、ユース等が登壇するオンライン国際シンポジウムをECWと教育協力NGOネットワーク(JNNE)と共催し、JNNE副代表の柴田スタッフがモデレーターを務めました。また、ECWによるEiEPCに関する英文資料の日本語訳を作成し公開しました。



和訳した EiEPC に関する資料

子どもに対する暴力撤廃(EVAC)

2017年より子どもに対する暴力撤廃(Ending Violence against Children: EVAC)を目指したアドボカシーを継続しています。その一環として、子ども時代に性的暴力を経験したサバイバーの国際・国内ネットワーク等と協働し、その声が政策に活かされるようアドボカシーを行ってきました。その成果として、2023年12月公表の広島サミット内務・安全担当大臣コミュニケにおいて、EVACへの積極的取り組みや、サバイバーの重要性の確認、サバイバーや支援団体との連携深化が宣言されました。また、2024年3月に開催された政府によるEVAC円卓会議ワーキング・グループ会議にメンバーとして出席し、国際動向に関するプレゼンテーションを行いました。



国内・国際サバイバー団体とともに日本外国特派員協会にて行われた記者会見(2023年3月)に登壇した柴田スタッフ(左)。こうした活動がG7サミットでの成果につながりました

皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動に参加していただいています。

グローバル教育

世界に目を向ける授業やイベントに8,880名が参加



サマースクールに参加した小学生親子

文京区で開催したサマースクールに参加した小学生親子と中高生ボランティア、塩野義製薬株式会社の皆さん

世界の現状を知り・考え・行動する機会にしてもらうために、幅広い年齢の子どもを対象に「グローバル教育」を行っています。授業や講演で貧困、飢餓、水衛生など子どもを取り巻く課題を包括的に紹介し、紛争や災害などの時事テーマについてもお話しています。支援事業実務者が専門性の高い内容を伝える機会を増やし、「将来、国際協力に携わりたい」「自分にできることを今日から行動したい」といったコメントが寄せられました。2019年以降の開催となった対面のサマースクールには定員を大幅に上回るお申し込みをいただきました。今後も教育機関や家庭で子どもたちが世界に目を向ける機会を提供していきます。

グローバル教育参加者	講師派遣	事務所訪問	サマースクール	グローバルフェスタ	教材利用
8,880名	51回 6,472名	19回 91名	3回 602名	443名	1,272名

ユースとの取り組み

様々な場でユースと協働しています

国際基督教大学主催のシンポジウムで、WV総裁が基調講演を行い、グローバル市民の条件や平和構築における若者の役割について語り、在学生・卒業生・教員・WVスタッフの間で、活発な意見交換が行われました。また、能登半島地震で被災した子どもたちのためのイベントでは、北陸学院大学の学生とともに企画運営をしました。WVJのSNS発信や事業調査、グローバル教育では学生インターンが活躍しています。



WV総裁アンドリュー・モーリーが基調講演を行った国際基督教大学(ICU)でのシンポジウム

イベント

対面&オンラインイベントを23回開催

「ワールド・ビジョン・カフェ」などの対面イベントと、毎月のインスタライブやウェビナーなどのオンラインイベントを開催し、WVJの活動の成果やスタッフの想いをお伝えするとともに、支援者の皆さまの声を伺いました。

WVJの公式YouTubeチャンネルで、過去のインスタライブのアーカイブ動画をご覧ください。



2月に石川県で開催した「ワールド・ビジョン・カフェ」にて

ボランティア

ボランティア活動が本格的に再開しました

136人の皆さまに活動を支援いただきました。チャイルド・スポンサーからの手紙は、約8,800通を東京事務所より各国現地事務所へ、チャイルドからの手紙は、約37,000通をチャイルド・スポンサーにお送りしました。また、中野区内の子どもたちの居場所「みんなのへや」での見守りボランティア活動や青山学院大学でWVJの講座受講学生がボランティア体験に参加するなど、新しい取り組みがありました。



ボランティアを体験する青山学院大学学生の皆さん

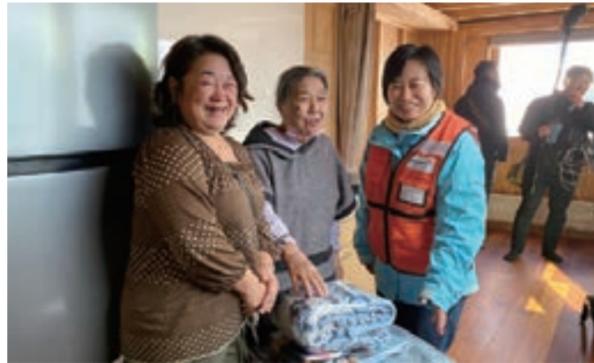
広がる支援の輪

ワールド・ビジョン・ジャパンは、個人や企業・団体、様々なパートナーの想いを大切に受け止めながら、現地の子どもたちが必要とする支援活動につなげています。

能登半島地震緊急支援での連携

被災した方に寝具セットを支援

西川株式会社さま(以下「nishikawa」と連携し、地震後初となる輪島市内の仮設住宅18戸に入居した55人の皆さまに、寝具セットを支援しました。ワールド・ビジョン・ジャパンとnishikawaは「災害時における物資の供給に関する協定書」を締結しています。この協定により迅速な対応が可能となり、輪島市の要請を受けてから中2日で入居開始日に間に合う支援を行うことができました。



仮設住宅へ最初に入居した方、ご家族と高橋スタッフ(右)

水・衛生改善事業での連携



ヤマハクリーンウォーターシステム(YCW)を導入した地域の人々と遠藤スタッフ(一番左)

子どもたちに清潔な水を供給しています

ケニア・ホマベイ郡で実施している水・衛生改善事業においてヤマハ発動機株式会社さまと連携し、同社の新興国の村落向け浄水システム「ヤマハクリーンウォーターシステム(以下、YCW)」を導入しました。YCWの水は「Japan Water」と呼ばれ、支援地域の子どもたちに清潔な飲み水を供給しています。今後は、地域の人々がワールド・ビジョンの研修を受けながらYCWを維持管理していきます。

遺贈・相続財産からの寄付

「人生の証」を未来につなげます

2024年度は、14件の遺贈・相続財産からのご寄付をいただきました。個別の相談対応、終活セミナーの開催、士業・専門家との連携も行っています。お一人おひとりの「人生の証」であるご寄付をしっかりと受け止めて、ご遺志を実現できるよう、今後も活動してまいります。

*「遺贈」は、遺言によって遺産の一部またはすべてを特定の個人や団体に贈与することです。

遺贈寄付についての ご相談・お問い合わせは

電話 03-5334-5355
(平日 10:00~17:00)

メール donation@worldvision.or.jp

詳しいパンフレット(無料)もご用意しています。お気軽にご相談ください。>>>>



2024年度 会計報告

正味財産増減の状況 2023年10月1日より2024年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減

経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	2,998,535	
	受取その他募金・寄付金(1)	1,022,436	4,020,971
2 受取補助金等(2)	政府系機関からの受取補助金等	464,752	
	民間団体からの受取助成金等	229,154	
	国連機関からの受取委託金等	1,958,877	2,652,783
3 受取会費		640	
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益			4,165
経常収益合計(A)		6,678,559	

経常費用

1 事業費	地域開発援助事業費	5,688,307	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	5,518,455	
	地域開発援助事業管理費(5)	169,852	
	人材派遣費(3)	9,360	
	啓発教育費	982,664	
	各種啓発教育費(4)	556,074	
	啓発教育事業管理費(5)	426,590	6,680,331
2 管理費(5)			107,871
経常費用合計(B)		6,788,202	

経常外収益

1 固定資産売却益	154
経常外収益合計(C)	154

当期一般正味財産増減額(A+C)-(B)	-109,489
一般正味財産期首残高	1,840,207
一般正味財産期末残高(D)	1,730,718

II. 指定正味財産増減

当期指定正味財産増減額	140,449
指定正味財産期首残高	430,832
指定正味財産期末残高(6)(E)	571,281

III. 正味財産期末残高

正味財産期末残高(※※)(D)+(E)	2,301,999
----------------------------	------------------

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費1,149千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。

※※正味財産の内訳は、資産・負債の状況のIII.正味財産の部を参照ください。

(1)~(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2024年度財務諸表等(2023年10月1日より2024年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。

2024年11月13日 森岡伸介公認会計士事務所による監査

2024年11月20日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
チャイルド・スポンサーシップ募金: 「受取スポンサーシップ募金」
その他募金・寄付金: 「受取その他募金・寄付金」
補助金等: 「受取補助金等」
その他: 「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」
- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
現地事業活動のため: 「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
広報活動のため: 「啓発教育費」
団体の運営・管理のため: 「管理費」

資産・負債の状況 2024年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部

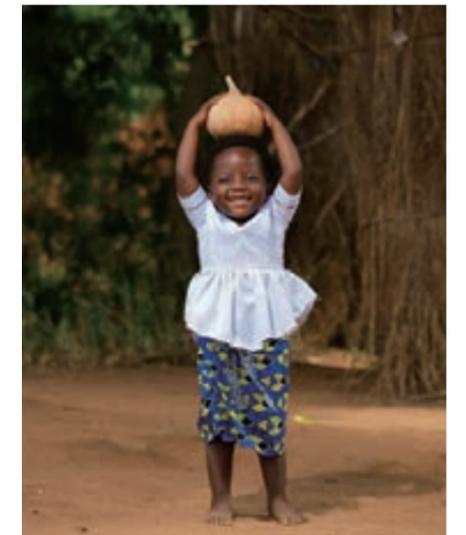
1 流動資産	640,795	
	現金預金	559,924
	前払金	76,372
	立替金	3,368
	仮払金	428
	その他流動資産	703
2 固定資産	2,048,110	
	基本財産	50,000
	特定資産(6)	1,922,467
	補助金・助成金・委託金引当資産	571,281
	地域開発援助事業引当資産	1,167,000
	その他特定資産	184,186
	その他固定資産(7)	75,643
資産合計	2,688,905	

II. 負債の部

1 流動負債	202,720	
	未払金	174,749
	預り金	1,831
	賞与引当金	26,070
	未払法人税等	70
2 固定負債	184,186	
	退職給付引当金	184,186
負債合計	386,906	

III. 正味財産の部

1 指定正味財産	571,281
(うち特定資産(6)への充当額)	(571,281)
2 一般正味財産	1,730,718
(うち基本財産への充当額)	(50,000)
(うち特定資産(6)への充当額)	(1,167,000)
正味財産合計	2,301,999
負債及び正味財産合計	2,688,905



会計報告の注記

●重要な会計方針の要約

- 1) 財務諸表の作成基準：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」（2008年4月11日 2020年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会）に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
- 2) 固定資産の減価償却について：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。

(1) 受取その他募金・寄付金の内訳(単位:千円)	
児童保護募金	2,345
誕生日記念募金	21,025
危機にある子どもたちのための募金	37,719
ラブ・ロープ募金	20,945
うちラブ・ロープ募金	1,414
うちヤマザキ「ラブ・ロープ」募金	19,531
緊急援助募金	112,391
うちウクライナ危機緊急支援募金	7,657
うち新型コロナウイルス緊急支援募金	23
うち能登半島地震緊急支援募金	78,895
うちシリア緊急支援募金	224
うちアフガニスタン地震緊急支援募金	2,443
うちパレスチナ緊急支援募金	9,269
うちミャンマー難民危機緊急支援募金	207
うち台湾地震緊急支援募金	8,609
うちトルコ・シリア大地震緊急援助募金	1,459
クリスマス募金	139,504
水と食糧のための募金	16,668
夏期募金	13
難民支援募金	90,094
国内子ども支援	38,866
コミュニティ・サポーター	69,867
プロジェクト・サポーター	114,072
プロジェクト・サポーター（難民支援）	25,963
特別プロジェクト募金	152,480
物資の受入	7,545
その他の募金・寄付金	172,939
受取その他募金・寄付金合計	1,022,436

(3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

(4) 各種啓発教育費の内訳(単位:千円)

広告費	461,230
各種広告費	398,786
パンフレット等印刷費・通信運搬費他	62,444
広報費	36,076
年次報告書(2023年度版)制作・発送費等	10,155
団体ホームページ制作費等	15,256
その他の広報活動費	10,665
ニュースレター制作・発送費等	20,954
チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・発送費等	35,365
その他啓発費等	2,449
グローバル教育活動・学校訪問等の費用	1,054
ラブ・ロープ募金箱の製作・運搬費等	1,106
活動報告会	289
各種啓発教育費合計	556,074

(2) 受取補助金等の内訳(単位:千円)

政府系機関からの受取補助金等	464,752
外務省 日本NGO連携無償資金協力	464,382
バングラデシュ/北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのこみ・衛生管理能力強化事業3	-124
エチオピア/アムハラ州フェレゲ・ヒウォット病院の安全・衛生環境改善事業2	-98
エチオピア/アムハラ州フェレゲ・ヒウォット病院の安全・衛生環境改善事業3	38,622
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途6,093千円保有しています。)	
ベトナム/ディエンビエン省における山岳民族の女兒と女性に対する人身取引予防事業3	-28
ヨルダン/イルビッド県における脆弱層に向けた初等・中等教育の就学・学習支援体制強化事業2	49,577
ヨルダン/イルビッド県における脆弱層に向けた初等・中等教育の就学・学習支援体制強化事業3	29,271
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途80,042千円保有しています。)	
ラオス/トムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業1	43,663
ラオス/トムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業2	18,748
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途72,252千円保有しています。)	
ウガンダ/ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業1	45,757
ウガンダ/ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業2	29,354
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途85,168千円保有しています。)	
ケニア/ホマベイ郡における水・衛生改善事業1	57,282
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途5,829千円保有しています。)	
ケニア/ホマベイ郡における水・衛生改善事業2	1,741
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途100,363千円保有しています。)	
ネパール/アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業1	51,570
ネパール/アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業2	40,194
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途58,823千円保有しています。)	
バングラデシュ/コックスバザール県ラム郡における水・衛生環境改善事業1	44,776
バングラデシュ/コックスバザール県ラム郡における水・衛生環境改善事業2	14,077
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途80,102千円保有しています。)	
外務省NGOスタディ・プログラム(2023年度)	370
民間団体からの受取助成金等	229,154
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム	229,154
バングラデシュ/ミャンマー避難キャンプおよびホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(BGV)に対する保護環境の整備・強化事業	2,935
バングラデシュ/ミャンマー避難キャンプおよびホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(BGV)からのコミュニティの予防・対応能力強化事業	18,056
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途11,944千円保有しています。)	
イラク/モスル西部における教育と子どもの保護支援事業	3,052
イラク/モスル西部における教育と子どもの保護支援事業2	27,870
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途2,130千円保有しています。)	
イラク/モスル西部における教育と子どもの保護支援事業3	21,489
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途9,151千円保有しています。)	
シリアにおける国内避難民への水衛生緊急対応事業	5,204
シリアにおける教育支援事業1	4,810
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途4,690千円保有しています。)	
シリアにおける教育支援事業2	27,865
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途2,130千円保有しています。)	
シリアにおける教育支援事業3	159
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途35,481千円保有しています。)	
シリアにおける栄養巡回サービス提供による栄養改善事業	8,740
エチオピア/アファール州における水衛生支援事業	4,397
ケニア/マルサビット県における食料危機支援プロジェクト	366
スーダン危機国内避難民への水衛生緊急対応事業	44,813
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途6,511千円保有しています。)	
ミャンマー/カチン州における紛争の影響を受けた人々への生活状況の回復支援と子どもの保護事業	59,398
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途10,572千円保有しています。)	
国際機関からの受取委託金等	1,958,877
国連児童基金(UNICEF)	69,627
国連世界食糧計画(WFP)	1,178,565
うち、受取委託物品	389,412
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	160,423
国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	79,985
国連開発計画(UNDP)	231,045
国連人口基金(UNFPA)	47,671
国連教育科学文化機関(UNESCO)	15,965
教育のためのグローバルパートナーシップ(Global Partnership for Education)	64,273
教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW)	111,323
受取補助金等合計	2,652,783

マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。

3) 引当金の計上基準:

- 賞与引当金： 職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
- 退職給付引当金： 職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。

4) 消費税等の会計処理：消費税等の会計処理は、税込で経理方式によっています。

(5) 事業管理費等の内訳、および集計(単位:千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。

地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接関わる国内管理費
啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接関わる国内管理費
管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

	事業管理費等合計	地開管理費	啓発管理費	管理費
人件費等	424,213	127,757	223,601	72,855
会議費	7,642	1,040	3,651	2,951
旅費交通費	9,397	2,785	5,178	1,434
賃借料	50,243	14,943	26,888	8,412
支払手数料	152,879	8,674	132,406	11,799
その他の管理費	59,939	14,653	34,866	10,420
合計	704,313	169,852	426,590	107,871

人件費等：職員等の給与手当、法定福利費等。なお2024年9月30日現在、職員80名、嘱託・アルバイト11名が在職
会議費：ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用
旅費交通費：職員の通勤費、事務ボランティアの方の事務所までの交通費等
賃借料：事務所家賃
支払手数料：入金にかかる口座引落・クレジット決済等の手数料、労働者派遣に関する料金、銀行・郵便局等の振込手数料等

(6) 特定資産の内訳(単位:千円)

補助金・助成金・委託金引当資産(指定正味財産)の内訳	
NGO連携無償助成金 エチオピア パナルダール3事業分	6,093
NGO連携無償助成金 ヨルダン3事業分	80,042
NGO連携無償助成金 ラオス教育2事業分	72,252
NGO連携無償助成金 ウガンダ2事業分	85,168
NGO連携無償助成金 ケニア1事業分	5,829
NGO連携無償助成金 ケニア2事業分	100,363
NGO連携無償助成金 ネパール防災2事業分	58,823
NGO連携無償助成金 バングラデシュ ラム2事業分	80,102
ジャパン・プラットフォーム助成金 バングラデシュ7事業分	11,944
ジャパン・プラットフォーム助成金 イラク7事業分	2,130
ジャパン・プラットフォーム助成金 イラク8事業分	9,151
ジャパン・プラットフォーム助成金 シリア教育1事業分	4,690
ジャパン・プラットフォーム助成金 シリア教育2事業分	2,130
ジャパン・プラットフォーム助成金 シリア教育3事業分	35,481
ジャパン・プラットフォーム助成金 スーダン事業分	6,511
ジャパン・プラットフォーム助成金 ミャンマー事業分	10,572
補助金・助成金・委託金引当資産合計	571,281

当年度までに受領した上記事業にかかる補助金等のうち、2025年度以降に支出を予定している金額です。

地域開発援助事業引当資産の内訳

スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(7)	995,000
一般募金による地域開発援助事業引当資産(4)	162,000
緊急援助事業引当資産(7)	10,000

地域開発援助事業引当資産合計 1,167,000

- (7)チャイルド・スポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に使途を特定した資産であり、2025年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。
(4)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急・復興支援事業含む)に使途を特定した資産であり、2025年度以降に支出を予定しています。
(7)大規模な自然災害や紛争の発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。

その他特定資産の内訳	
退職給付引当資産	184,186
その他特定資産合計	184,186

(7) その他の固定資産の内訳(単位:千円)

建物附属設備	9,676
什器備品	11,266
ソフトウェア	20,833
電話加入権	373
敷金	33,495
その他の固定資産 合計	75,643

(8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

(9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。2024年度(2023年10月1日~2024年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=136.28円でした。

監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2名の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3~5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対応を行います。

2024年度 支援事業一覧

注記1「物」と記載のある支援額は、物資支援を円貨換算したものです。 注記2 助成・委託団体名は下記の通りです。

- A: 外務省 日本NGO連携無償資金協力
- B: 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム【JPF】
- C: 国連世界食糧計画【WFP】
- D: 国連児童基金【UNICEF】
- E: 国連難民高等弁務官事務所【UNHCR】
- F: 国連人道問題調整事務所【UNOCHA】
- G: 国連教育科学文化機関【UNESCO】
- H: 国連人口基金【UNFPA】
- I: 国連開発計画【UNDP】
- J: 教育を待たない(Education Cannot Wait)基金【ECW】
- K: 教育のためのグローバル・パートナーシップ【GPE】

国名	プロジェクト名	チャイルド・スポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)	
海外支援								
東アジア	台湾	台湾東部地震		5,748,476	5,748,476	8,832		
	カンボジア	トモ・ボオ地域開発プログラム	63,871,949		63,871,949	10,120	2,100	
		ボレイ・チュルサル地域開発プログラム	68,342,987		68,342,987	22,489	2,300	
		『キャプテン賞』ボールはともだちプロジェクト 世界の子どもたちへのボール支援事業		1,169,112	586,000	1,755,112	2,872	
	ラオス	最も弱い立場にある子どもたちへの医療費支援プロジェクト 第4期(カンボジア)		3,832,317		3,832,317	80	
		トゥムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業1	10,014,874		34,533,911	A	44,548,785	28,941
	ミャンマー	トゥムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業2	6,578,009		17,850,750	A	24,428,759	28,941
		カバウン地域開発プログラム	35,768,291				35,768,291	23,389
	ベトナム	カンディタン地域開発プログラム	58,762,066				58,762,066	15,013
		カチン州における紛争の影響を受けた人々への生活状況の回復支援と子どもの保護事業		6,836,335	57,877,954	B	64,714,289	
ムオンチャ地域開発プログラム		31,169,511				31,169,511	49,891	
トアンザオ地域開発プログラム		35,768,292				35,768,292	11,162	
南アジア	ソルハ地域開発プログラム	63,102,548				63,102,548	28,189	
	トアンザオ郡における幼稚園分園の給食調理施設建設支援事業		2,966,086			2,966,086	101	
	『キャプテン賞』ボールはともだちプロジェクト 世界の子どもたちへのボール支援事業		586,000			586,000	6,974	
	幼稚園給食支援による子どもたちの健康・栄養改善事業(2年次)		8,303,354			8,303,354	332	
	フンホア郡モンテソーリ教育を通じた幼稚園支援事業		8,272,823			8,272,823	1,090	
	フルバリア地域開発プログラム	89,420,731				89,420,731	270,526	
	ビロル地域開発プログラム	76,646,340				76,646,340	68,468	
	ビルゴンジ地域開発プログラム	63,871,950				63,871,950	81,128	
	イスラムプル地域開発プログラム	73,452,742				73,452,742	84,007	
	コックスバザール県ラムラ郡における水・衛生環境改善事業1		7,802,396	35,041,847	A	42,844,243	108,879	
コックスバザール県ラムラ郡における水・衛生環境改善事業2		5,093,939	13,007,356	A	18,101,295	108,879		
ミャンマー避難民キャンプおよびホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)からのコミュニティの予防・対応能力強化事業		11,788,009	14,577,628	B	26,365,637	3,119		
ミャンマー避難民キャンプにおける食料支援		191,616	44,147,850	C	44,343,981	8,902		
ミャンマー避難民キャンプにおける最貧困層に対するセーフティネット事業		633,099	28,920,007	C	29,553,106	1,801		
ミャンマー避難民キャンプにおける総合栄養不良予防およびコックスバザールの2郡における母子栄養改善事業		1,455,131	2,492,809	C	10,873,842	3,247		
ミャンマー避難民キャンプにおける食料支援(2024年)		1,085,823	125,772,003	C	126,884,351	9,334		
ロヒンギャ難民およびホストコミュニティの子どもたちを対象とした教育支援事業			26,525	物				
ラム郡における水衛生環境改善事業		8,575,448	15,965,014	G	18,693,496	6,110		
南ダッカ西部における子どもの保護支援事業2		3,707,639			3,707,639	230		
最も弱い立場にある子どもたちへの医療費支援プロジェクト 第4期(バングラデシュ)		7,063,599			7,063,599	40		
ゴラバンド高校における教育支援事業		8,272,823			8,272,823	360		
北ジャカルタ市チリチン2小学校の学習環境改善事業		3,486,642			3,486,642	329		
インドネシア	チャイルド・スポンサーシップ事業	129,660,059			129,660,059			
ネパール	西ドティ地域開発プログラム					40,466	1,500	
	バジャン地域開発プログラム					15,100	2,500	
	バシケ・ジャナキ地域開発プログラム ※事業開始に向けた調査および事業計画策定					0	0	
	アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業1	14,198,352	68,857,212	A	83,055,564	67,000		
アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業2	3,707,639	8,575,448	A	12,283,087	67,000			
バジャン郡スニパル/バジャン小中学校における教育支援事業	8,753,395			8,753,395	953			
レイテ地域開発プログラム	31,041,768			31,041,768	264,672	1,200		
ソマール地域開発プログラム	46,882,012			46,882,012	46,080	1,600		
フィリピン	エスデ地域開発プログラム ※事業開始に向けた調査および事業計画策定	12,774,390			12,774,390	0	2,000	
	ミンダナオ島都市部脆弱地域における子どもの健やかな成長のためのコミュニティ強化事業		3,052,313		3,052,313	15,756		
	レイテ州タクロバン市/バソグ再定住地小学校・幼稚園校舎(1棟1教室)建設支援事業		3,559,328		3,559,328	520		
	『キャプテン賞』ボールはともだちプロジェクト 世界の子どもたちへのボール支援事業		67,960		67,960	868		
スリランカ	リディマリヤグ地域開発プログラム	51,097,560			51,097,560	20,026	1,950	
	リディマリヤグ郡ヤルウェラ・マハ・ヴィディアラヤ学校建設支援事業		4,195,365		4,195,365	392		
ブルンジ	アウェイ地域開発プログラム ※事業開始に向けた調査および事業計画策定	12,774,390			12,774,390	0	0	
	アラ地域開発プログラム	56,973,779			56,973,779	149,158	2,200	
エチオピア	コンチャ地域開発プログラム	38,560,646			38,560,646	57,772	2,000	
	アムハラ州フェレ・ビョット病院の安全・衛生環境改善事業3		17,233,935	31,327,052	A	48,560,987	1,205	
	イラマタク地域開発プログラム	63,871,950			63,871,950	33,367	2,100	
	キアムボゴ地域開発プログラム	51,097,560			51,097,560	25,500	2,100	
ケニア	ホマベイ郡における水・衛生改善事業1		10,979,396	51,158,716	A	62,138,112	22,871	
	ホマベイ郡における水・衛生改善事業2			1,500,235	A	1,500,235	37,007	
	ケニア保健・栄養統合干渉対応事業			29,218,804	C	29,218,804	15,939	
	イラマタクMother to Mother プロジェクト	249,166			249,166	0		
キアムボゴMother to Mother プロジェクト(2年次)	27,592,299			27,592,299	13,035			
ナロク県、ナクル県、ホマベイ県へのソーラーランタン寄贈プロジェクト		4,982,700		4,982,700	23,150			
ケニア洪水対応プログラム2024		1,664,759		1,664,759	815			
ルワンダ	キラムルジ地域開発プログラム	68,981,706			68,981,706	32,708	2,200	
	グウィガ地域開発プログラム	63,871,950			63,871,950	36,358	2,000	
	ニヤガレ地域開発プログラム	55,887,956			55,887,956	149,004	2,500	
	イランガ地域開発プログラム ※事業開始に向けた調査および事業計画策定	8,942,073			8,942,073	0	0	
	コンゴ及びブルンジ難民とホストコミュニティに対する水衛生、教育、生計向上支援事業		10,858,232	59,808,347	E	70,666,579	34,267	
	生計向上プログラムを通じた経済的自立支援事業(THRIVE 2030)		1,513,254		1,513,254	149,073		
東アフリカ	ソマリア・サウスセントラルにおける干ばつ対応事業(2022)			6,794,567	C	6,794,567	15,082	
	ソマリア・サウスセントラルにおける干ばつ対応事業(2023)		723,158			723,158	47,059	
				301,565	物			
			8,091,043	13,455,214	C	21,546,257		
	ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業(2023)			38,606,783	物	60,153,040	23,034	
	ソマリア・ソマリランドにおけるセーフティネット事業(2021)			23,037,341	C	23,037,341	7,352	
	ソマリア・サウスセントラルにおける干ばつ救済事業		1,085,823	67,482,186	C	69,265,960	7,275	
			697,951	物				
	ソマリランドにおける脆弱国向け事業		3,052,313			3,052,313	7,740	
		トンジ郡における食糧支援事業	201,708	2,913,522	C	3,115,230	3,624	
南スウェーデン	西エクアトリア州における食料支援事業		191,616	3,685,857	C	3,877,473	2,125	
				3,136,460	物			
	西エクアトリア州における食料支援事業(2024年)		1,799,912	5,929,936	C	7,729,848	2,979	
				4,646,244	物			
	中央エクアトリア州における食料支援事業		288,062	2,466,425	C	2,754,487	4,062	
				9,892,037	物			
アッパーナイル州における保健サービス変革事業	1,298,134		4,242,745	D	5,540,879	48,331		
南スウェーデン・教育分野におけるレジリエンス強化事業(2期)	10,943,053		94,796,698	J	105,739,751	5,738		
アッパーナイル州マラカで洪水被害を受けた学校への教育緊急対応事業			2,255,442	K	2,255,442	1,619		
アッパーナイル州マラカで洪水被害を受けた学校への教育緊急対応事業(2期)			8,586,434	K	8,586,434	1,561		

国名	プロジェクト名	チャイルド・スポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)	
海外支援								
東アフリカ	スーダン	スーダン危機内避難民への水衛生緊急対応事業		8,197,741		8,197,741	27,775	
	南ダルフール州緊急食糧支援事業			1,085,823	43,626,952	B	51,824,693	
						1,130,888	C	2,444
	南ダルフール州地域栄養改善事業			1,085,823		1,085,823	3,180,801	
						58,862	C	2,063
	東ダルフール州の国内避難民への子どもの保護、ジェンダーに基づく暴力(GBV)、コミュニティに基づく保護サービス事業			8,489,987		8,489,987	14,683,491	3,325
		東ダルフール州の難民への子どもの保護、ジェンダーに基づく暴力(GBV)、コミュニティに基づく保護サービス事業		1,159,659		1,159,659	10,134,967	2,245
		東ダルフール州および南ダルフール州難民・国内避難民・保護希望者への保護事業		10,003,753		10,003,753	71,275,459	1,795
		ブルーナイル州におけるコレラ対応事業		3,832,317		3,832,317	22,794,766	26,627,083
	タンザニア	ゴロワ地域開発プログラム		43,113,566		43,113,566	43,841	1,850
ムキンガ地域開発プログラム			46,933,109		46,933,109	77,393	2,050	
ウガンダ	ルンディ地域開発プログラム		73,452,743		73,452,743	16,444	2,700	
	タンザニアにおける前線対応事業			2,695,396		2,695,396	2,179	
	キルンガ地域開発プログラム	51,736,280			51,736,280	57,569	1,600	
	ロバランケット・カレンガ地域開発プログラム		73,452,742		73,452,742	35,208	2,700	
南アフリカ	アインダ地域開発プログラム ※事業開始に向けた調査および事業計画策定	12,774,390			12,774,390	0	0	
	ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業1		9,495,991		9,495,991	32,427,743	14,019	
	ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業2		6,949,976		6,949,976	28,637,473	17,731	
	ビディビディ、ルムフンジャ、およびチャカ難民居住地における食糧支援事業(2024)		5,494,137		5,494,137	51,623,973	14,814	
	ビディビディおよびロシ難民居住地における生計回復支援		6,463,586		6,463,586	15,843,167	935	
	西ナイル地域における子どもと青少年の教育・スキル強化事業		8,686,585		8,686,585	56,922,741	3,057	
	サンバ地域開発プログラム	33,572,119			33,572,119	29,613	2,000	
	ルアラバ地域開発プログラム	33,555,768			33,555,768	41,979	2,000	
	南キープ州における食料配布事業		1,339,139		1,339,139	3,073,605	6,342	
	中央カサイ州ルンバノにおける慢性栄養不良予防事業		1,916,159		1,916,159	5,674,522	5,237	
東アフリカ	中央カサイ州、東カサイ州における食料配布事業					3,869,384		
					1,331,024	C	19,068,242	
					16,651,395	物	8,855	
	北キープ州における緊急食糧配布事業		2,199,622		2,199,622	48,147,682	8,855	
	ルチュル州における脆弱国向けパイロット事業		3,052,313		3,052,313	7,392		
	性的搾取・虐待からの保護事業					47,671,012	1,416	
	エスワティニ(スワジランド)	ジェワラ地域開発プログラム	55,313,108			55,313,108	19,135	
		ゲゲ地域開発プログラム	50,586,585			50,586,585	18,164	
	ガーナ	生計向上プログラムを通じた経済的自立支援事業(THRIVE 2030)			378,377		378,377	200
	マリ	ジェンネにおける脆弱国向け事業			3,052,313		3,052,313	1,973
東アフリカ	エルクアトル	コルタ地域開発プログラム	56,846,035		56,846,035	34,420	1,950	
		アングラ地域開発プログラム	40,878,048		40,878,048	13,761	1,350	
中南米	エルサルバドル	『キャプテン賞』ボールはともだちプロジェクト 世界の子どもたちへのボール支援事業		114,970		114,970	2,266	
				610,000	物			
中南米	エルサルバドル	ディエラ・ヌエバ地域開発プログラム	25,548,780		25,548,780	55,691	1,000	
		サンアグスティン地域開発プログラム	41,389,023		41,389,023	55,738	1,600	
中南米	グアテマラ	『キャプテン賞』ボールはともだちプロジェクト 世界の子どもたちへのボール支援事業		22,355		22,355	1,378	
		セケ地域開発プログラム	31,935,975		31,935,975	6,183	2,000	
中南米	ホンジュラス	サンタ・マリア・カバボン地域開発プログラム	31,935,974		31,935,974	5,280	2,000	
		サン・ペドロ・スラにおける脆弱国向けパイロット事業			3,052,313		1,954	
東アフリカ	アフガニスタン	バグス州における緊急食糧支援(2023年~2024年度)</						

ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョン(WV)は、約100カ国で活動する世界最大規模の国際NGOです

ワールド・ビジョンの始まり

WVの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピアスは、「すべての人々に‘何か’はできなくとも、誰かに‘何か’はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どもたちのために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



ワールド・ビジョン創設者
ボブ・ピアス

組織と運営

WVでは、各国が独自に総会・理事会を持ち、その国のWVの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。

WV全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を開始する国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、WVパートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

WV全体の収入推移(億米ドル)



ワールド・ビジョン 全体の活動データ(2023年度)

組織関連

活動国数

約100カ国

スタッフ数

約34,000人

食糧支援を受け取った人

1,150万人

活動関連

開発援助

チャイルド・スポンサーシップで登録されている子ども

230万人以上

チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラム(AP)の総数

1,088

チャイルド・スポンサーシップによる支援が届いている子ども

約1,520万人

緊急人道支援

緊急人道支援を届けた人

3,640万人

アドボカシー

弱い子どもたちのために実施された運動

210万件以上

ワールド・ビジョン・ジャパンについて

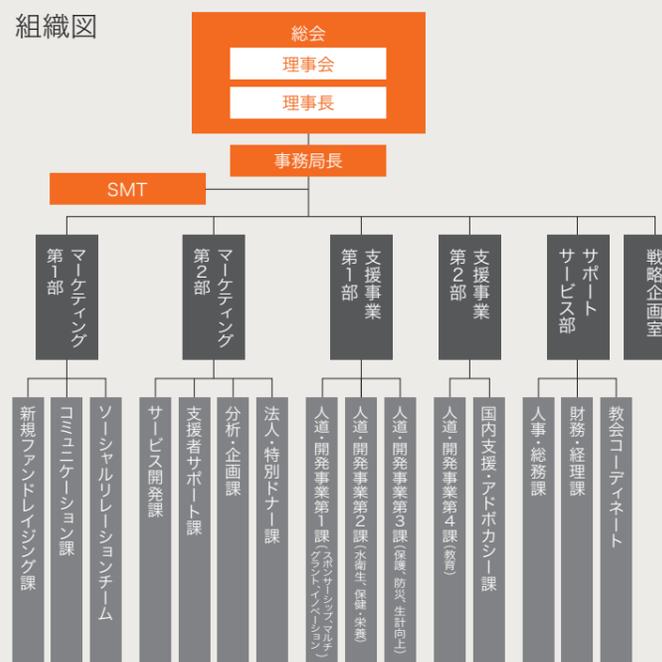
ワールド・ビジョン・ジャパンの始まり

WVは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年には「特定非営利活動法人」の認証を得て、法人格を持つ民間の援助機関となりました。また2002年5月には、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月からは東京都より改めて認定されています。



組織図



役員・親善大使(全員無給です)

- 理事長 片山 信彦
(前 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 副理事長 飯島 延浩(山崎製パン株式会社代表取締役社長)
- 理事 峯野 龍弘(ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会牧師)
- 理事 湊 晶子(学校法人広島女学院顧問)
- 理事 安西 愈(弁護士)
- 理事 安藤 理恵子(玉川聖学院中等部・高等部学院長)
- 理事 木内 真理子
(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 富岡 徹郎(国際基督教大学常務理事)
- 理事 チャールズ・バテノック
(ワールド・ビジョン・インターナショナル パートナーシップ・リーダー)
- 理事 森 清(社会医療法人財団大和会理事)
- 監事 小西 孝蔵(元農林中央金庫監事)
- 監事 新川 代利子(ウェスレアン・ホーリネス神学院教授)

親善大使 ジュディ・オング(歌手・女優・木版画家)

親善大使 酒井 美紀(女優)

2024年10月1日時点



SDGsへの取り組み

WVは、子どもたちの健やかな成長を目指す活動を通じて、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の達成に向けた取り組みを進めています。

